

2030年に向けた教育の在り方に関する 第2回日本・OECD政策対話（報告）

2014年4月のグリアOECD事務総長・下村大臣間での合意に基づき、新しい時代にふさわしいコンピテンシー、カリキュラムや授業の在り方、アクティブ・ラーニングをはじめとした学習・指導方法、学習評価の在り方等に関する包括的な意見交換を実施（第2回：6月29日於東京）。

OECD側出席者

Andreas SCHLEICHER	教育・スキル局長
Miho TAGUMA	シニアアナリスト
Shun SHIRAI	アナリスト

日本側出席者

鈴木 寛	文部科学大臣補佐官
山中伸一	文部科学省事務次官
前川喜平	文部科学審議官
小松親次郎	文部科学省初等中等教育局長
大槻達也	国立教育政策研究所長 ほか

東京学芸大学、東京大学、広島県等から代表者が参加

- 我が国が推進する、学習指導要領改訂や高大接続改革等の教育改革の取組、これらの実施を担保するための教育投資の在り方の検討状況等について共有。
- OECDが推進するEducation 2030事業の具体的な実施計画について共有。
 - ※ Education 2030事業については、知識・スキル・人間性(Character)を一体的に捉え、これからの時代に求められるコンピテンシーについて、4年間(2015-2018)で検討する計画。本取組により、知識・スキル・人間性(Character)への重点の置き方が異なる各国のカリキュラムの在り方の、国際比較も計画。
- OECDからは、我が国の社会ニーズに応えた、将来志向のカリキュラム改革の取組等について高い評価がなされ、Education 2030を通じた国際貢献について、改めて期待を表明。

政策対話において出された主な意見

- 新たなカリキュラムの策定と実施
 - － 人間性(Character)、社会的スキル(Social Skill)を重視したカリキュラムを策定する必要
 - － 策定及び実施に学校・教員を巻き込むことが重要
 - － カリキュラム実施にあたって進捗に差が生じる場合、それを考慮に入れる必要

- 新しいカリキュラムのインプリメンテーションのための教員及びスタッフの養成・研修機会の確保及びそのための投資の重要性
 - － 現職教員の意識改革
 - － 教員はじめ学校スタッフの確保
 - － 日本の教員は、子供の人間性の涵養等、他国の教員に比べてより幅広い役割を担っており、他国にとってのモデルとなる。

- 教科学習における主体的・協働的な課題探究型教育の重要性

- 教育内容と教育方法のバランスの重要性
 - － アクティブ・ラーニングと知識量のバランス、習得すべき主要な概念・知識と、それ以外の事実に知識を構造的に捉える必要性

政策対話において出された主な意見

- 教科教育と教科横断的教育のバランスの重要性
 - － 日本は「総合的な学習の時間」により先導し高い評価。各教科の能力を着実に習得し、「総合的な学習の時間」を通じて実社会で生きる力に高めている
 - － 例えばフィンランドなど、より幅広く教科の統合を導入する国もある
 - － 日本のように「特別活動」のような良い事例を分析するフレームワークがあることは、良い事例を理解することにつながる。

- 選挙権年齢の18歳以上への引き下げに伴う公民権教育の重要性（日本のケース）

- 教育改革における学校間ネットワークの重要性
 - － OECD東北スクールの成果継承、発展普及

- 時代の変化に対応した教育に対応した、新たな学習成果・教員評価における信頼性と有効性
 - － これまで測定してこなかった新たな対象に対するアプローチ

- グローバル化・少子高齢化等の時代の変化を乗り越え、新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を子供たちに育むための新たな教育モデルを日本・OECD共同で開発し、我が国のみならず、課題を共有する諸外国と共有し、各国における学校教育の革新等に寄与することを目的として実施するもの。
- 本プロジェクトは、日本・OECD間のバイラテラルな枠組みのもとで、以下の具体的な事業を通じて実施する。

政策対話

新しい時代にふさわしいカリキュラムや授業の在り方、アクティブ・ラーニングをはじめとした学習・指導方法、学力評価の在り方等に関して、文部科学省・OECD双方のハイレベルスタッフにより意見交換を行う政策対話を実施し、本プロジェクトに包括的な方向付けを与えることとする。

共同研究

日本側は東京学芸大学を主な主体として、日本・OECD共同で、教育方法や、OECDが有する様々なノウハウ・データの調査研究等を通じて、学校現場の教育革新に資する成果の創出を目指す。

地域創生イノベーションスクール2030

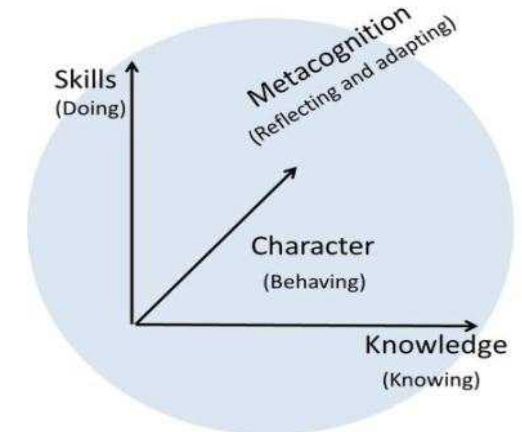
OECD東北スクール事業の成果の上に、課題解決や国際性涵養等に資する学習内容・方法の学校現場への普及を実践的に検証する事業として、文部科学省・OECD・福島大学等が共同で実施することを目指す。

Education 2030プロジェクトのマルチでの議論の目的・枠組み

○ 2030年に向けて育成していかなければならないキー・コンピテンシーについて、「Knowledge, Skills, Character」等の視点から改訂を行い、各国の政策立案をサポートするために行うもの。日本・OECD共同イニシアチブ・プロジェクトの成果を元にしつつ、当面2015年から2018年の4年間での実施が予定しており、2019年以降については、キー・コンピテンシーに係る教授法や評価の在り方等について、引き続き検討がなされる予定。

○ Education 2030の目的は、以下の3つ。

- A. 教育に関するより長期的な議論を促進すること
- B. 将来、幸福な生活を送りながら社会にも貢献できる人材に求められる「Knowledge, Skills, Character」等を特定し、再定義すること
- C. 長期的な政策に必要な共通のConceptual Frameworkを作ること

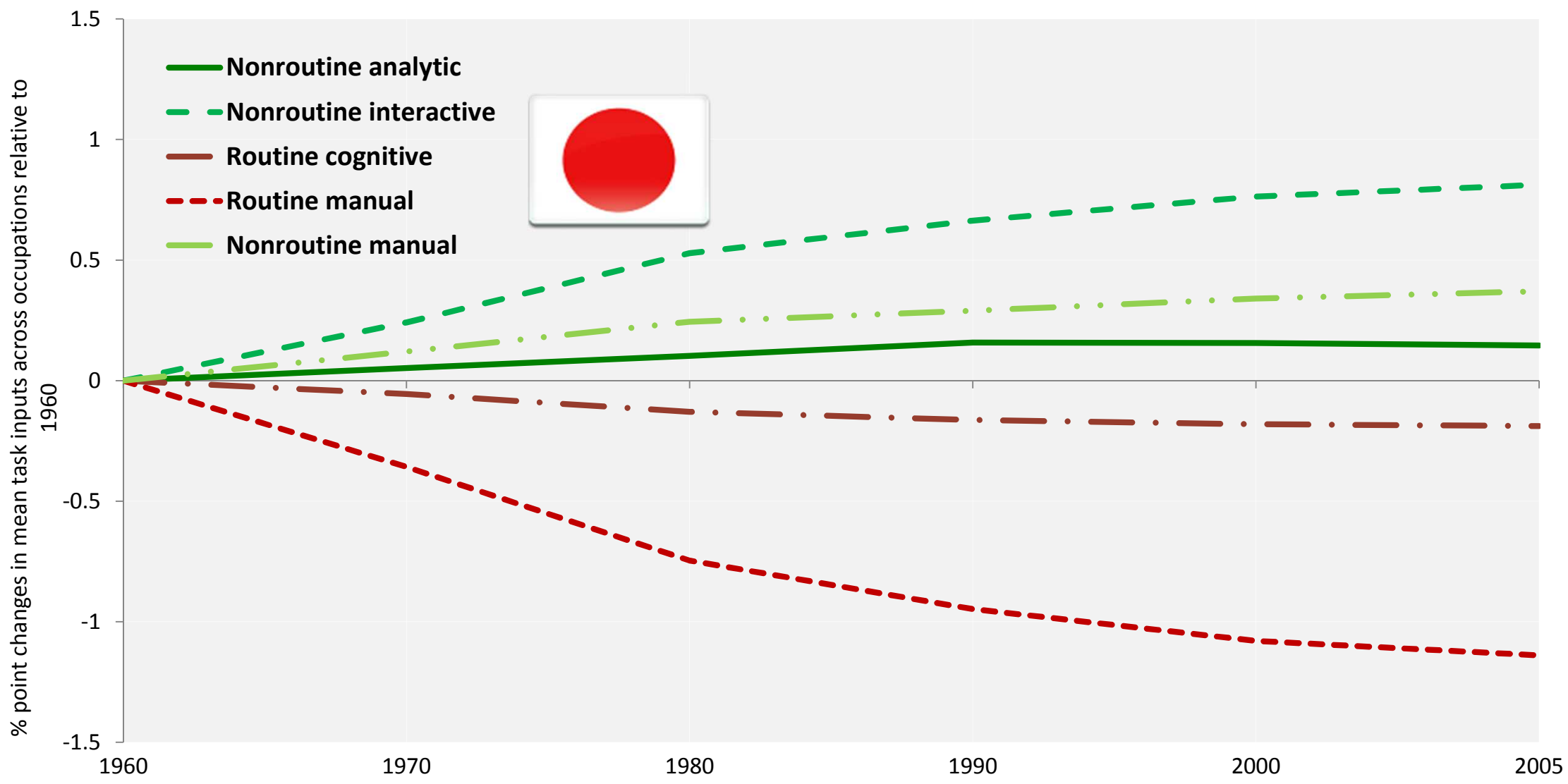


○ 現在提案されている分析のframework は以下の5つの側面に焦点を当てようとしている。

1. (社会経済分析) 将来の予測が困難な2030年の時代に適応していくために子供達に求められるKnowledge等はどうのようなものか
2. (教育政策分析) 現在の政策やカリキュラムによって形成されているKnowledge等と、将来必要なそれとのギャップはどうのようなものか
3. (制度分析) 保護者や地域コミュニティ、自治体、大学等との連携のような学校外での学習や教育実践を組織化していくためのインセンティブ、ディスインセンティブにはどのようなものがあるか
4. (学習・教授分析) 新たに必要となる学習、指導の方法とはどのようなものか
5. (過程分析) 良い教育の実現のために、1～4それぞれがどのように関連し合っているか

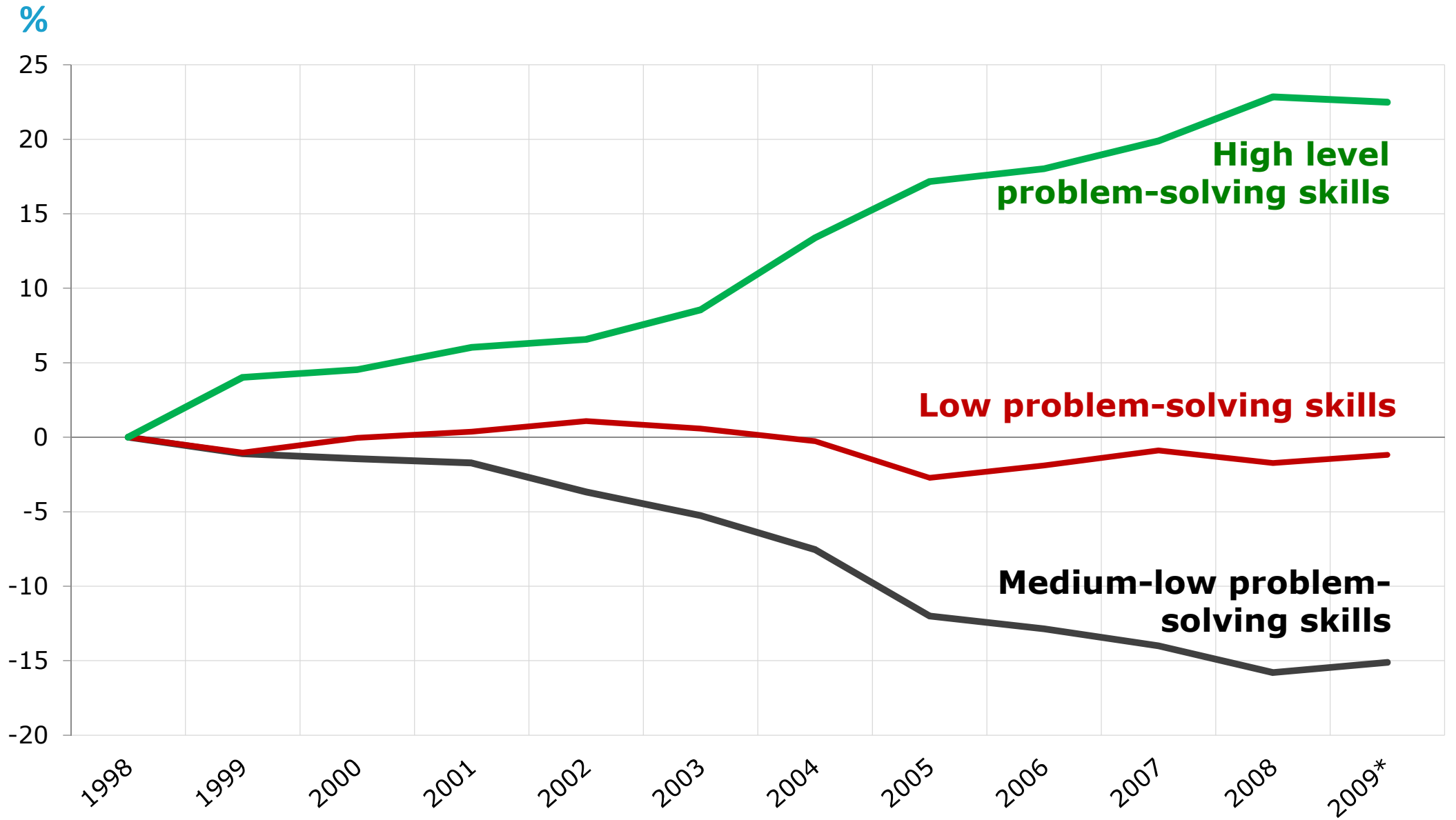
※ このプロジェクトは、①非公式ワーキンググループ、②OECD事務局、③各国の専門家・研究者、④教員団体等の関係団体、の参画を通じて実施することを予定。
OECDとしては、現在、各国に対して当プロジェクトへの参加を呼びかけているところ。

Skills demand changed for Japanese workers between 1960 and 2009.

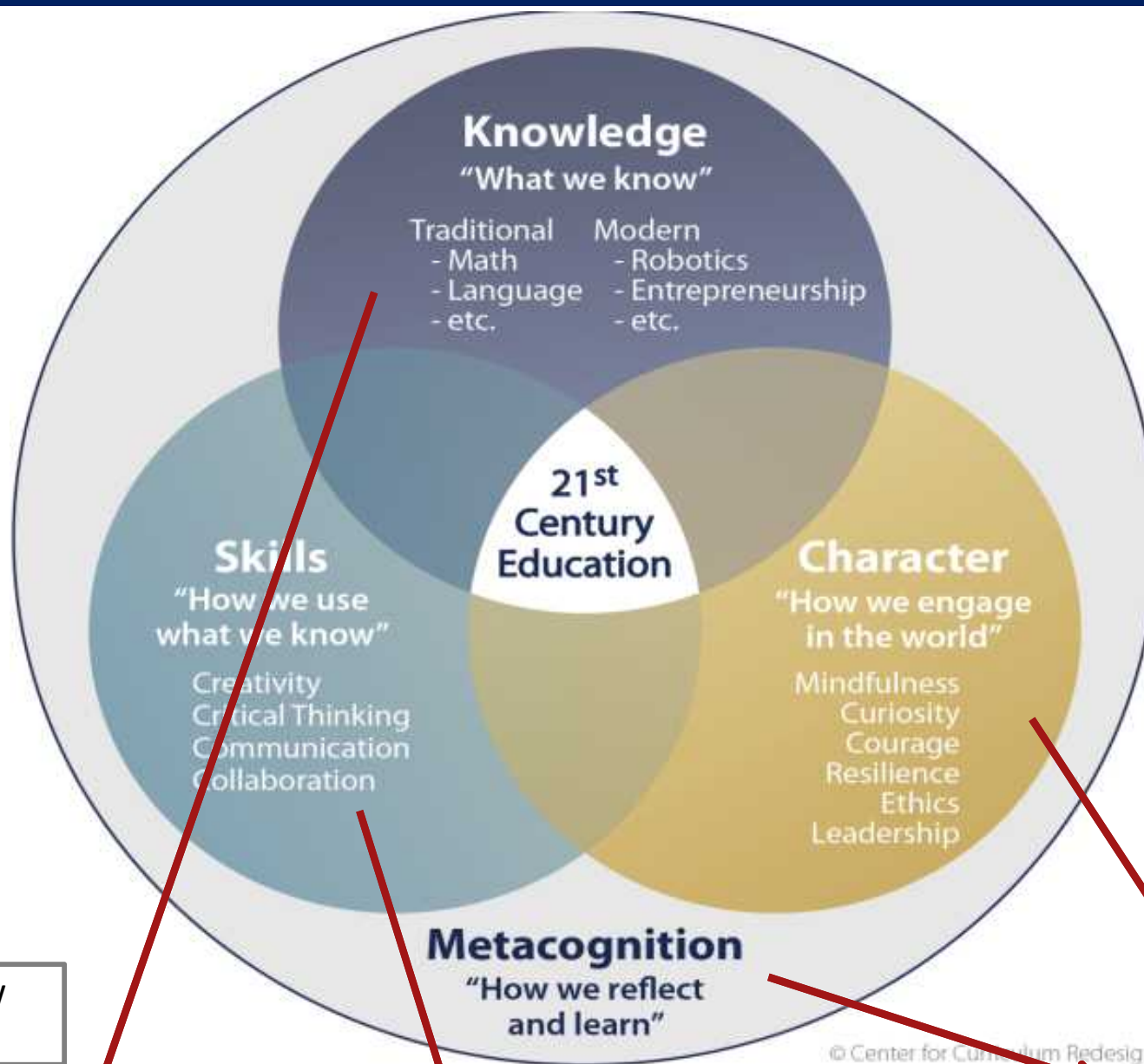


Ikenaga and Kamibayashi (2010)

Evolution of employment in occupational groups defined by problem-solving skills



Overlap between the concept of Curriculum Redesign and “Three Elements of Competency”



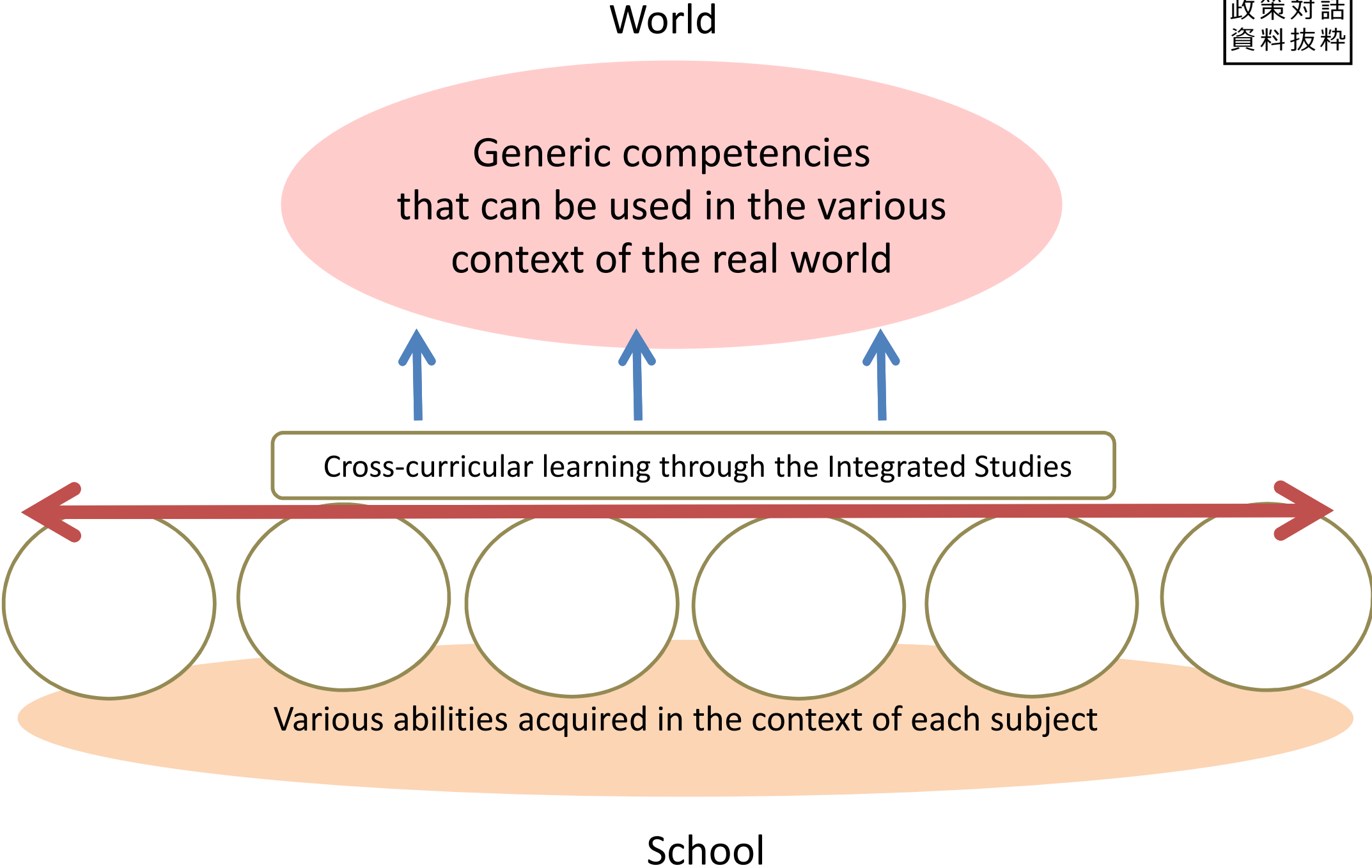
School Education Law
Art. 30, para 2, etc.

Factual knowledge
and specific techniques

Skills of critical thinking, decision
making, communication, etc.

Readiness for learning
Humanities
Proactivity, Respect for
diversity, Collaboration, etc.

Interrelation between studies in Subjects and Integrated Studies



How we engage in the society and the world, and live a better life

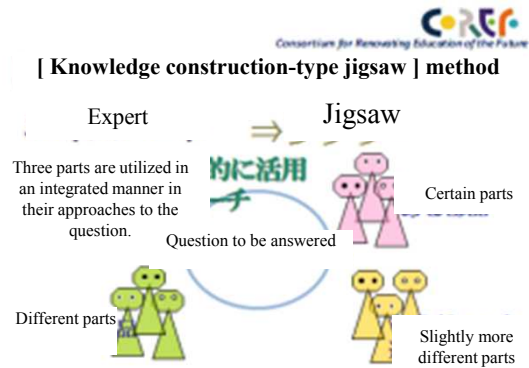
How we learn

Active Learning

**What we know
What we can do**

**How we use
what we know and
what we can do**

Collaborative learning (jigsaw method)



World History

One theme are divided into plural viewpoints, and each group in charge of each viewpoint gives an explanation. The explanations are integrated through discussion to find out a better answer. The process leads students deeper understanding.

Inquiry-based learning in Super Science High Schools



Frontier Science I · II · III

<Cycle of a unit>

Preparation → Field work, Lecture → Inquiry activities → Presentation and Evaluation

Logical thinking, creativity and originality, ability inquire scientifically and skills to express are developed.

Inquiry-based learning in Super Global High Schools



Global Inquiry

Students investigate current situations and problems of the local industry and traditional crafts in Japan and abroad, and explore the possibility of a global expansion.

The foundation of critical thinking, judgement, and practical communication skills is developed.

Experiential learning in “challenge schools”



Life Practice

Students learn how to protect themselves from crime, skills of writing letters of thanks and traditional etiquette.

Knowledge and skills necessary to live independently are acquired through solving problems in everyday life.

Project-based learning in vocational high schools



To achieve low-cost and year-round cultivation of vegetables, students conduct joint research on “no-heating cultivation of winter vegetables” by using solar thermal energy and improving the soil with the use of biomass materials. Students also did harvesting and sale of vegetables.

Utilization of ICT



Students record the process and the course of chemical experiments and observations using tablet PCs. They are used to communicate, compare and share the results.